

会 長 : 合原 一夫 560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 電話06-6833-9227
 事 務 局 : 関 剛 532-0011 大阪市淀川区西中島1-2-24 電話06-6304-0255
 広 報 : 前田 茂夫 573-1171 枚方市三栗1-18-20 電話072-850-5781
 HP 担当 : 坪井 仁志 559-0033 大阪市住之江区南港中5-6-22-703 電話06-6613-2836

平成29年4月 (2017年) No.616

難波市民学習センター

「駅前映画会」は大入り満員の大盛況

例会場のある大阪市立市民学習センターの講堂（定員120名）で、初めて「駅前映画会」を開催しましたが、反響が大きくて、予想以上の観客が集まり、うれしい悲鳴をあげました。終了後学習センターの方より安全対策として定員を守らないと、万一事故が起きた場合、大変困るとのご注意を受けました。今後対策を考えます。今回の人気のもとにはテーマがよかったんじゃないかと思っています。「大阪の昭和といま」というキャッチフレーズに魅かれて来られた方が多かったのではないかと考えられます。今後も駅前映画会をやって下さいと学習センター側より云われていますので、年1回は企画してもいいかなと、次はどんなコンセプトでテーマを設定したらよいか考え始めています。どうぞご意見きかせて下さい。

公開映写会での照明に思う

春と秋は映像発表会の季節で、あちこち発表会が行われ、できるだけ観に行きたいと思っていますが、会場で感じたことは、1作品上映し終わって次作目の間の司会者の司会中、場内を真暗のまま司会者だけにスポットで照らしている会場があります。これは司会者にとってまぶしいのと、観客が全く見えない、従って観客の反応が掴めないという悩みがあります。一方、観客側からすればせっかく手元にプログラムがあるのに見えない、或いは途中から入場したい人が席を探して暗い場内にまごまごしていらっしゃる等の負の面があります。司会中は半照明にすべし、との結論ですが皆さんの声は如何？

■4月例会のお知らせ

■第2例会：4月は第2例会ありません。

■通常例会：第4土曜22日18時より、第2会場と同じ難波市民学習センター（JR難波駅OCATビル4階）にて開催。
 撮影会参加申込者でまだ費用未払いの方、会計へどうぞ納めて下さい。
 季節もよし、どうか皆様お越し下さい。

■OMC 撮影会

既報の通り5月13日（土）～14日（日）に有田得生寺の「中将姫来迎会」をメインに実施されます。
 参加費16,000円は3月例会で申し受けます。希望者は至急電話を！

■課題コンテスト、歌会始めと同じ題で「語」

課題コン「語」を作っておられますか？

第2例会5月18日（木）午後1時から出席者の投票で審査が行われます。

皆さん、タイトルに「語」が入った作品をご持参ください。

■コンテストに出してみませんか

作品がコンテストに入れば、たとえ佳作だったとしても大変自信のつくものです。

最近では全国コンテストが少なくなりましたが、まだまだ開催しているところがあります。まずは「東京アマチュア映像祭・全国ビデオ映像コンテスト」6月末〆切り、（参加料2,000円）というコンテストがあります。

丹波篠山コンは11月締切で出品料なし。但しテーマが「生きる」に決まっています7分以内という制約があります。

3月通常例会レポート

今年は例年より寒い日が続き、桜の開花宣言も遅れそうな予想。例会日の25日（第4土曜日夜）も肌寒い晴れたり曇ったりの日でしたが、会場は熱心な会員諸氏で一杯。今月の司会は進藤氏、書記、高瀬氏、メモリ記録、稲田氏、映写、井上、坪井の両氏、受付兼照明係は本来宮崎さんの担当でしたが欠席なので副の森口氏の担当、掲示はいつもの紙本氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、稲田、井上、江村、岡本、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、坪井、野田、華岡、前田、森口、森下、森田、山本、山城、西條、弓取、の22氏と作品13本が出品され時間一杯の盛会となりました。

■上映作品（今月の講評は高瀬世話役）

1. 紀州三線（BD）紙本 勝 9分15秒

サブタイトルに「廃線ぶらり歩きNo.7」とあるように、廃線ぶらり歩きシリーズの7作目。今回は紀州和歌山の三つの廃線に行かれた。まず海南市の日方駅から登山口駅までの野上電鉄跡。平成6年に廃止され、線路跡は道路となり、当時の面影はない。次は金屋口から湯浅港の海岸駅までの有田鉄道跡。当時の車両が保存されたり、駅跡が公園になったりしているが、一部に残る線路は生い茂る草に埋もれている。そして三つ目は紀州鉄道。今も御坊から西御坊までは運行されているが、西御坊から先の日高川までが平成元年に廃止され、線路は雑草に覆われている。廃線跡は線路や信号機、駅舎が当時のまま残され無残な姿をさらしている。それが逆にどこか哀愁や郷愁といった感情を誘い、絶好の被写体となるわけだが、紙本さんはそうした風景を精力的に訪ね、なつかしい思いを見事に描写されている。

2. ある奉納コンサート（BD）進藤信男 13分50秒

和歌山県田辺市の鬮鷄神社で2月3日に行われた節分祭とペーパームーンの奉納コンサートの模様をまとめられた作品。神社の境内で節分祭の豆まき、餅まきなどの行事が終わり、コンサートが始まる。ペーパームーンはクラシック曲などを自由に編曲して音楽を楽しむヴァイオリン2人とボーカル3人のグループ。曲目もバガニーニ、イギリス民謡、愛燦燦などクラシックから歌謡曲と幅広い。鬮鷄神社は2016年に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、弁慶親子や熊野水軍をはじめ周辺には田辺城水門跡、熊野古道、南方熊楠の研究所跡など史跡も多く残されている。こうした風景、史跡などを荘厳な鬮鷄神社の境内に響くペーパームーンの重厚な歌声をからませて編集。特に歌のイメージや歌詞と風景が合うように苦心されているのが随所に見て取れる。ただクラシック調の歌声との組み合わせはなかなか難しい面もあるようで、コンサートと史跡や風景の映像を分けてもよいのではという意見もあった。

3. 廃線紀行 倉吉線（BD）江村一郎 8分35秒

天女伝説の残る打吹山（うつぶきやま）の麓を走っていた倉吉駅から山守駅までの20キロの廃線跡。始発駅だった倉吉駅はバスターミナルに整備され、上灘駅は鉄道記念館がありSLが展示されているが、泰久寺駅では線路跡に竹が生え、関金駅では線路は雑草に覆われ、かつての面影はない。しかし江村さんは1985年に廃止される以前、今から30数年前に8ミリフィルムでこの路線を走るSLを撮影されていて、その映像を現在の風景と重ね合わせ編集されている。天神川を渡るSL、白い煙を吐きながら打吹山の山麓を疾駆するSLの雄姿。画質は粗いが決して色褪せていない、フィルムのなつかしい映像が今の作品として蘇える。江村さんの作品といえば、猫の登場だが、この作品も猫が振り向くと同時にSLの映像に切り替わるシーンが印象的である。

4. 富来八朔祭り（全）（BD）河合源七郎 14分13秒

昨年12月例会で宵宮（9分52秒）、今年1月に本宮（11分51秒）と2回に分けて映写された能登の富来（とぎ）八朔祭を合わせて再編集された作品。能登最大の祭りといわれ、富来神社、住吉神社や摂社などの神輿、キリコ、太鼓が乱舞する。境内に集まり暴れるのに時間制限はないとかで、2日にわたり祭りが最高潮に達する真夜中まで撮影。まったく疲れを感じさせないカメラワークで激しい動きを活写されている。宵宮と本宮の神輿やキリコの乱舞にやや似通っているシーンが見られるが、二昼夜にわたって神輿を担ぎ続け、神との宴に酔いしれる人たちの表情を追い続ける迫力のある映像は見応えがある。宵宮と本宮の間に増穂の浜で一休みし思い思いの宴を繰り広げるシーンは一息つかせてもらえる。

5. ボイ溪谷の中世教会群（BD）華岡 汪 8分29秒

ボイ溪谷はスペイン北部、ピレネー山脈にある。山間にあり、イスラム勢力の支配が及ばず、中世のキリスト教の建造物が多数残されている。11世紀から12世紀初頭に建てられた初期ロマネスク様式の教会群は2000年に世界遺産に登録されている。その中で、三つの教会を巡られた。ボイ村では日本にはない石積みのお家の珍しい風景が見られる。しかし聖ヨハネ教会の内部は壁画がはがされ、無残な姿をさらしており、文化を守る大変さが窺い知れる。ボイ村からタウル村へ移動しサンクリメント教会へ。ここではプロジェクトションマッピングを使って壁画を再現。日本でもそうですが、どこでもプロジェクトションマッピングは大流行りのようです。そして聖母マリア教会へ。ここでも村の石積みのお家が美しい。考えてみれば、これらの教会が建てられたのは千年前、日本では平安時代に当たる。その頃から石造文化の美しい村を守り続けてきた人びとの心遣いが感じられるとナレーションで結ばれている。全編を通じ、おとぎ話に出てくるような村の風景を趣のある映像で表現されているが、現録の人の声や川の音がBGMと重なったりしているところがあり、少し気になります。

6. ロケット花火祭（BD）山本正夢 10分50秒

台湾台南市の「鹽水蜂炮」と呼ばれる「鹽水爆竹祭り」に行かれ、最も過激なロケット花火祭りを撮影された。昔、この地に疫病が流行り、武廟の関羽に助けを求めると我を神輿に乗せ、爆竹を鳴らし街中を回れと教えられ、その通りにすると疫病が収まったことから、旧暦の1月15日に行われるようになったという。当日使われる花火は大小合わせ2000万発。毎年、けが人や死者も出るという過激な花火祭り。祭り見物にはヘルメットや防護服着用が義務付けられているとか。花火が打ち上げられたかと思うと、爆竹が鳴らされ、ロケット花火が顔のあたりを行き交い、頭上から花火が降り注ぐ。そんな中、撮影も大変だっただろうと思われる珍しい映像を見せていただいた。

7. ビデオ教室ロケ風景 (BD) 弓取克弘 5分28秒

他のクラブでモデルを使って大阪南港のATCで行われたビデオ教室のロケ風景を作品にされている。前半はモデルとカメラマンや指導する先生の様子を中心に撮影会風景としてまとめられている。軽快なBGMはまさにバックミュージック的なもので無難。ただ先生が指導されている時も音楽だけなのだが、ここは先生の声があれば撮影教室という雰囲気が出るのではと思われる。そして後半はモデル主体となるが、BGMもそれにふさわしく情感のあふれるものを入れられている。特にラストの2シーンはカメラアングルも良く秀逸。しかし全体的に全身やバストショットの画面が多いので、足や手などのアップがあれば、変化がつけられたのではという意見があった。

8. 田歌祇園社の神楽 (BD) 前田茂夫 9分57秒

昨年、撮影会を行った美山かやぶきの里からさらに8キロほど山間に入った田歌という集落の八坂神社の伝統神事。毎年7月14日に行われ、朝早く、その年の当屋（とうや）と呼ばれるお宿となる家で準備が行われているところから撮影されている。顔や身体に白粉を塗る若衆の様子をアップでとらえ、どんな神事が始まるのかというワクワク感を盛り上げている。準備が終わると、鬼の面をかぶった子供や天狗、ひょっとこ、おたふく、三人の奴などユーモラスな行列が時には、やと一せ、やと一なと掛け声をかけ、神社に向かう。神社では宮司が祝詞を上げ、神楽が始まる。撮影場所を間違ひ、神楽舞台の後ろから撮ることになり、満足に撮影できなかったとお聞きしたが、おたふくとひょっとこの仕草や太鼓をアップでとらえられ、そうしたミスは感じられない見事な仕上がりとなっている。

9. 桶がわ祭り (BD) 森口吉正 10分40秒

岐阜県加茂郡川辺町の県神社で毎年4月1日に行われる祭りで、別名「乞食（こじき）祭り」と呼ばれる。その名の通り、祭りの主役は「乞食」。江戸時代に村が飢饉に襲われた時、住み着いた乞食に食べ物を恵んだところ、豊作になり、乞食は神様の使いだったと伝えられるようになった。その伝えによりこの時期、豊作を願って厄年の男性が乞食姿で主役になり、祭りが行われている。といっても神輿もなければ、カネや太鼓、笛の音は聞かれず、ただ乞食が一人座っているだけで、最後に桶に入れられた赤飯を乞食の前でひっくり返し氏子が奪い合うという、なんとも奇妙な祭り。この祭りを詳細に撮られ、乞食にインタビューを試みられ、森口さんならではのしゃべりでうまく話を引き出されている。

10. 円空彫に魅せられて (BD) 高瀬辰雄 7分50秒

昨年9月の第二例会で一度、見ていただいた作品で、時間を半分に短縮し、ナレーションを入れ（前回はテロップのみ）再編集した拙作。全国各地で修業し64年の生涯に12万体の仏像を作ったといわれる江戸時代の僧侶、円空の仏像に魅せられ、80歳（現在74歳）までに千体の円空仏を彫ろうと挑戦している人の映像。大半が小さな仏像の製作過程にとどまり、人物を描く作品の難しさを痛感しています。

11. バラが咲いた (BD) 有村 博 3分10秒

昭和41年に発売されたマイク真木が歌うヒット曲「バラが咲いた」の歌に合わせて、いろいろなバラが登場する。特にバラの花のアップを多用され、印象の強いカットが続くなど、短い編集に凝られた好作品となっている。ただ2番の歌詞の部分でバラや他の花、ややロングに引いた花の風景などを背景に二つの映像を重ね合わされているシーンは、どちらの画像も色がやや浅くなっているのが気になりましたが、「バラが散った…」という歌詞に合わせて、あえてややぼかした映像にされたのでしょうか。

12. 国道1号線 (BD) 坪井仁志 8分30秒

「私は毎月、ビデオクラブの例会に守口市のコミュニティーセンターを訪れる」というナレーションで始まる。タイトルの「国道1号線」もそうだが、どんな内容の作品なのかと、思わず引き込まれる。例会場の窓から見える国道1号線、この道をまっすぐ東に行くと、三重県桑名市につながると展開する。作者の生まれた家は桑名市の国道沿い。幼いころの様子や伊勢湾台風、名古屋城に金の鯨が運ばれた思い出などを古い写真やフィルムで紹介。祖父からはこの道を東に行くと東京、西に行くと大阪と教えられる。その東の先で奥さんになる人と出会い、今、西の先の大阪で暮らしている。時間の経過を感じさせる情感のある映像で綴られていく。一本の道がこれまでの思い出につながるという着想が素晴らしく、好作品に仕上げられている。

13. 河内音頭「幡随院長兵衛」 (BD) 岡本至弘 13分25秒

今年の3月4日に東大阪アリーナで行われた東大阪市民文化芸術祭の河内音頭「幡随院長兵衛」の舞台をノーカットで撮影されている。踊り子サークル「壺の集い」による大勢の人の踊りも入り、にぎやかな舞台だが、カメラは1台のようで、画角は舞台全体と、少々寄った映像で変化はあまりない。そのためやや長く感じられる。記録として残されたり、出演されている方や関係者が見られるには良いだろうが、作品として見るには、もう少し縮められた方がいいように思います。

3月第2例会レポート

梅の花が散りかけた3月16日（第3木曜日）の午後、今年2回目の第2例会が行われました。出席者17名、作品数はアーカイブを含めて8本、参考作品4本と、第2例会としてはまずまずの出席者と、充分時間をかけての作品上映、意見交換

等、充実した例会でした。司会、合原氏、書記、西村光雄氏、パソコン記録、江村氏、映写稲田氏、受付兼照明係、森下氏、掲示は紙本氏の担当で進行。

■**出席者**：稲田、植村、江村、蟹江、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、西村（光）、中村、華岡、前田、森下、山本の17氏。

■**上映作品**（今月の講評は西村(光)世話役）

1. 成人になるまで (BD) 柴辻英一 7分00秒

モデルのFさんの成人式の着付けを入念に撮影されました。構図、カメラワークはさすがベテランらしく、的確で安定した画面で撮られていました。『ロケのロケ』と言うサブタイトルが着いており、プロと思われる方が撮影している映像がかなり挟み込まれていました。また、若い人の作り方を取り入れようとの意図もあり、音楽にもそれが現れています。作品の意図（コンセプト）は作者の考えを尊重しなければなら無いと思いますので、その点には触れませんが、『成人になるまで』のタイトルには成人になる過程が含まれているように思いますので、このタイトルであればそういう生い立ちのカットも必要なかと思いました。Fさんに取っては良い撮影と編集で貴重な記録になるでしょう。

2. 早春の湖畔 (BD) 江村一郎 6分50秒

2月に琵琶湖の守山市に撮影に行かれました。遠くの山の雪、枯れた葦と芽吹きかけている草、菜の花や水上スキーをする人等を上手に組み合わせて、早春の湖畔の雰囲気をよく出された作品に思えました。席上でも指摘がありましたが、最初のBGM（早春賦）を終わりまで使われたのには私にも違和感がありました。音楽が終わると作品も終わってしまう感じがしますし、途中の適当な場所で背景音なり新しい音楽に変えられる必要があると思います。全体としては作者らしいセンスの良さが随所に見られる、季節感のある作品に仕上げられていました。

3. もう大丈夫、関くんの新しい旅立ち (BD) 中村幸子 12分00秒

九州にある不登校児等を立ち直らせる学校を4日間泊り込みで密着取材され、この例会に間に合うように急いで編集されて持参されました。時間を掛けて撮影されていますので、とても良い材料が沢山撮られていました。急いで編集されたからでしょうかまだ荒削りの部分があり、これから磨き上げて行かれると良いドキュメンタリー作品になると思います。作者が気にしておられたインタビューのつながりですが、あまりにも細かく切りすぎに感じました。ラッシュを見ていないので推測ですが、例えば相手の返事に一瞬ためらいとかがあって、間が生じる事があります、そういった部分を厳格に切り捨てて言葉だけをつながれたのではないのでしょうか。一瞬のためらいの映像にも相手の感情が出るので、インタビューの流れを損なわない範囲で不要な所を切られれば、カットつながりの箇所が少なくなりインサートカットも入れ易くなると思います。要は同じサイズの画面のつながりが問題なので席上提案があったように、固定カメラを1台置いて2台で撮影するとか、1台の場合はタイミングを見ながらサイズを変え撮影すれば（かなり難しいですが）、つながりが楽になります。後タイトルを含めてテーマの更なる絞込み、観客によりわかりやすい説明手法等を工夫されれば、素晴らしいドキュメンタリー作品に仕上がるでしょう。

4. 「けんいちSLにのる」から30年 (BD) 高瀬辰雄 11分00秒

30年前にご子息のけんいち君と大井川鉄道のSLに乗車されたホームビデオをベースにして制作されました。当時はまだフィルムの時代で、サウンド付きのフィルムが使われたそうで、音ずれもなく迫力が有りました。今はパソコン編集でも容易に出来ますが、当時はかなり編集に労力を掛けられたのでしょう。その努力の成果で良いホームビデオに仕上げられていました。ただ追加された現在の部分がかなり短いので、前作との時間的な配分のバランスが取れば更に良くなるのではないのでしょうか。

5. 台南を訪ねて (BD) 山本正夢 7分50秒

知り合いの方から台南の観光紹介ビデオの制作を依頼されて、台南市を訪れて撮影されました。その目的の為に多くの場所を丹念に撮影されBGMに載せて編集をされました。特に興味深かったのはキリスト教会の映像で、一般的に教会の内装とかは洋風に出来ていますが、内装や絵画も完全に中国風で線香を供えているのも驚きました。作者の作品にはいつも珍しい映像が出て来て、撮影対象に対する感性の鋭さを感じます。BGMの小節の区切りとカットチェンジのタイミングを合わせて編集されていますので、テンポよく映像と音の流れに身を委ねて心地よく見る事が出来ました。カメラワークやカットの選定も適切で、観光紹介ビデオを超えたで出来映えになって居たと思います。

■**アーカイブズ**（懐かしの作品上映）

1. 合掌作りの里 (BD) 河合源七郎 6分20秒
2. ラオスの素顔 (BD) 河合源七郎 9分40秒
3. 鎮魂の島は今 (BD) 合原一夫 10分00秒

■**参考作品**（あじさい映像発表会2014作品集より）

1. 照明技師の人生 西丸一夫

- | | |
|-------------|------|
| 2. 6丁目13番地 | 小野塚了 |
| 3. 音の職人 | 古川一清 |
| 4. 定年ジィジの想い | 陣野秀明 |

■YouTubeへ作品をアップロードしてみませんか（再）

作品を例会以外で見えていただく方法の一つにYoutubeへアップロードしてOMCのホームページにリンクして載せる方法があります。その方法は下記からみられます。（前田・坪井記）

下記のリンクから入って下さい。

[28-09-youtube-upload.pdf](#) へのリン